



# 月刊 労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

97.4.30 No. 4588

一波又一波

—この地平をバネに反転攻勢へ(4/27臨大)

## 28名の不当解雇全員撤回を



不屈の闘いを貫いてきた今日の国鉄闘争地平は、全て動労千

### ついに敵を追いつめた!

三月末、清算事業団当局は、ついに第一波・第二波ストを理由に不当解雇攻撃を受けた二八名全員の解雇撤回を認め、第一波ストに対しておこなったスト損賠訴訟も取り下げて、東京高裁の場で和解が成立した。組合員の団結力と十一年間にわたる原則を貫いた闘いが、ついに清算事業団当局を追いつめた。全員の解雇撤回を実現したのだ。

動労千葉は、四月二十七日、第二四回臨時大会を開催し、この大きな勝利の地平を高らかに確認するとともに、この勝利をバネとして、いよいよ清算事業団一二名の解雇撤回、「本丸」J R体制打倒に向けた総反撃の闘いに起つことを宣言した。

葉の第一波・第二波ストから始まった。当時、国鉄労働運動は、二〇万人の首切りをつきつけられ、国家を挙げた不当労働行為と動労・革マルまで抱え込んだ反動の重包囲のもとで危機に瀕していた。われわれは、この最も困難なときに、まなじりを決して起ちあがったのだ。

動労千葉は、自らの首をかけたストライキに起ちあがることをもって、分割・民営化攻撃のどす黒い本質を赤裸々に暴きだ

し、国鉄労働者の総決起を呼びかけ、力関係を逆転させた。この闘いは、展望を見失いかけていた国鉄労働者に大きな衝撃と勇気を与えたのである。

これは、政府・国鉄当局にとって最も恐れたことであつた。敵は大打撃を受け、狼狽して空前の大弾圧をもって臨んだ。

しかしわれわれは屈しなかつた。屈しなかつただけではない。国鉄労働運動全体から見れば「ひと握り」にも満たない動労千

葉の闘いが、ついに分割・民営化攻撃の根幹を揺るがし、敵を追いつめ、二八名全員の解雇撤回を認めさせたのである。

### 総反撃を開始しよう!

この闘いの地平は、何よりも動労千葉七〇〇名組合員と家族の強固な団結力、惜しみない支援をつづけてくれた全国の仲間

## この勝利をステップに

### オ二四回臨大 中野委員長あいさつ

今日は臨時大会の召集ということで、本部として、代議員・傍聴者の皆さんにお集まりいただきまして、第一波・第二波ストの解雇撤回闘争という、動労千葉の原点とも言ふべき重要な案件について十分に審議をし、討論をし、決定をしていただきたい。

国鉄闘争が極めて重要な局面に立ち至っている状況の中で、我々は一〇年間の攻防戦の決着を求める闘いを展開しなければいけない、そういう立場から恒常的ストライキ方針をうちだし、最大の敵であるJ R体制の打倒に向けて頑張つて来ました。

またこの決着は一人動労千葉のみならずJ R職場で闘っている国労の仲間達や、支援して大なる全国の労働者達にたいして大変な、重要なインパクトを与える勝利ではないのかという判断をいたしました。

二八名の解雇者を始めとした全支部・全組合員のこの間の頑張りから敬意を表すると同時に、高裁におけるこの決着を大きなステップにして、清算事業団闘争、J R総連解体・組織拡大、夏期物販闘争、沖縄闘争など当面する闘いを全力をあげて取組んでいく、これまで以上に運動を強化していくという立場で本日の本部方針を積極的にうけとめ討議されることを心より要請いたします。

二八名の公労法解雇について、清算事業団側が全面的に撤回をするという約束をしたことの上になつて、東京高裁において和解が成立をしました。併せて第一波ストの損害賠償をめぐる裁判、動力車会館をめぐる敷地の問題等、清算事業団との間で闘われてきた案件について一括して三月末をもって決着をつけたわけです。

国鉄闘争が最大の正念場を迎えている情勢のなかで、今回の判断はいかなるものであるのか、そういう問題について本部は議論を重ねてきました。そして本部は、全員の解雇を撤回させたという今回の事態は、国鉄闘争の勝利にとつて、やはり画期的な地平を切り開くものであると考えています。この闘いをステップに、動労千葉の団結は強化され前進することは間違いない。